

繋ごう 旭川との絆！

Vol. 44



第45回東京旭川会総会・懇親会のご報告

2023年10月28日(土)午後5時から、ハイアット・リージェンシー東京で開催されました。出席者は会員91名、旭川市・協賛関係など25名、合計116名でした。



▲今津市長のご挨拶

第45回総会・懇親会を開催しました。

今年は、新型コロナウイルス禍が終盤を迎えたので感染防止に配慮しつつもコロナ禍以前と同様に本格的な総会・懇親会を目指して取り組みました。

第44号：令和6年(2024)3月29日発行

発行：東京旭川会 〒359-0041

埼玉県所沢市中新井4-24-3

(高木宏明)

TEL/FAX：04-2942-8455

e-mail：asahikawakai_tokyo@yahoo.co.jp

編集：東京旭川会広報チーム

*【予告】本年度第46回の総会・懇親会は、10月26日(土)午後5時からのご予定です。

様に本格的な総会・懇親会を目指して取り組みました。

総会では、令和4年度の事業報告・決算報告、令和5年度の事業計画・予算が諮られ承認されました。更に、加藤桂子氏の会長の退任と荒川繁氏の会長就任が承認され、監査役に野作雅章氏と安井規雄氏の留任が承認されました。

引き続き(株)オービタルエンジニアリング取締役社長の山口耕司さん(旭川出身)をお招きして『町工場の宇宙開発』と題して講演いただきました。

懇親会に先立ち、ご来場の皆さまを代表して旭川市の今津寛介市長にご挨拶いただきました。旭川市から画家佐藤美紀さんへ感謝状贈呈式があり、法人向けふるさと納税」と劇団BREA THの公演の紹介がありました。

懇親会は、中川市議会副議長の乾杯のご発声ではじまりました。「私(達)こんな活動をしています」コーナーでは、千葉楽斗さん(津軽三味線奏者)、山本瑞樹さん(イラストレーター)と朝妻久実さん(AJO代表)に発表していただきました。復活した恒例の抽選会など大いに楽しんでいただきあつという間に時は過ぎ盛況の内に終了することができました。

開催にあたって旭川市はじめ諸団体・企業、会員の皆さまには一方ならぬ協力を賜りこの場をお借りしてお礼申し上げます。次回も多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

「皆さん、よろしく願い
いたします」

東京旭川会会長
荒川 繁



▲荒川会長と加藤前会長

この度、新会長となりました荒川です。宜しくお願い致します。大谷さくら幼稚園・青雲小学校・聖園中学・西高と、一八歳まで旭川で過ごし、その後は東京です。結婚して、四十六年たちますが、この間浅草地域で生活しております。(もうエッ子ではなく、江戸っ子擬きです)さて、新会長として前会長の業務を踏襲しながら、私が行いたいことは、この会を五年・十年と確実に繋いで行くこと、そして未来の旭川に役立つ事を、具体化して、実行することと思っています。

今までも、会の皆様方と旭川在住の方々からのご協力があったて成り立っている旭川会と申します。今後とも皆様方の力強いご支援・ご協力が必要だと思っております。宜しくお願い致します。

終わりに、皆様方のご健勝と益々のご発展をお祈り申し上げます。挨拶にかえさせて頂きます。

「挨拶申し上げます
加藤桂子」

この度第45回東京旭川会総会において第六代会長を退任いたしました。引き続き顧問として微力ながらお手伝いさせていただきます。たく所存です。

昭和52年に発足したこの会との縁は深く、常にその存在は身近にありました。昭和62年から幹事としての会の運営に携わるよう第二代八木祐四郎会長のお声が掛かり、以来副会長、会長と務めてまいりました。

その間、会員相互の交流を図ることを中心に考えながら、旭川市との連携を密にして年に一度の総会・懇親会、郷土訪問の旅、イベントへの応援、参加等々幹事会メンバーと相談しながら活動してきました。

年一回発行される「ななかまど」にて報告しておりますが、近年は様々なツールを駆使し、広くお知らせする手段が増えていると感じております。

改めて振り返ってみると、在任中のあれこれが頭の中をよぎります。コロナ禍により総会・懇親会が2年にわたり、中止せざるを得なかったことが一番苦しかったことです。

それだけに復活できたようこそは何物にも代えがたく、合言葉の「ふるさとに出会える」喜びを実感できました。

今後とも「世代を超えて愛される旭川会を目指す」「私たちの旭川会を感じていただける運営」「ふるさと旭川に対する愛情を次の世代に伝える」を継続しながら発展させて行かれますよう期待してご挨拶いたします。変わらぬご支援を心からお願ひ申し上げます。



▲総会・懇親会受付

今回は感染症流行のくびきから開放され、総会・懇親会は講演会と抽選会を復活し大いに盛り上がりました。

▲岩城恵美さん
(劇団breathの11月11日東京公演について)▲堀池美歩さん
(「法人向けふるさと納税」について)

▲左から中村副議長、佐藤美紀さん、今津市長

今津寛介市長からのご挨拶に続いて、旭川市に作品を寄贈された画家の佐藤美紀さんへ感謝状の贈呈式、「企業向けふるさと納税」と「劇団BREATHの公演」の説明がありました。



▲今津市長



▲乾杯!!

中村のりゆき旭川市議会副議長のご発声で懇親会が開始されました。



恒例の大抽選会を4年ぶりに復活し皆さん大いに楽しんでいただきました。



▲朝妻久実さん (AJOの活動、「応援アワード2023」の説明)



▲山本瑞樹さん (イラストレーター、飛行機やヘリコプターなどを描いています。)

▲千葉楽斗さん
(津軽三味線奏者)

今年も三人の方が「私(達)こんな活動をしています」コーナーで発表しました。



▲抽選者と当選者



▲荒川さんのメの挨拶



▲最後に全員がステージ前に整列し記念写真を撮りお開きとなりました。

講演

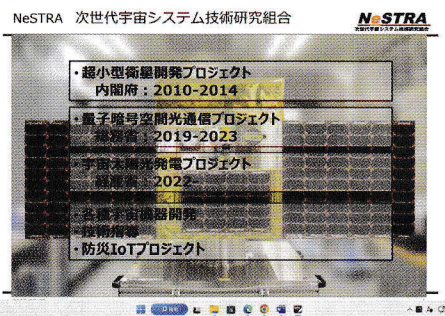
「町工場の宇宙開発」

第45回東京旭川会総会では、多数の宇宙関連プロジェクトに携わる旭川出身の山口耕司さんをお招きしてお話を伺いました。日本のモノづくりの技術がロ



▲山口耕司さん

ケットや人工衛星の製造に大きく貢献していること、ひいては応用技術が被災にも及ぶことをご自身の体験や裏話を交えた判りやすいお話でした。



●一文なしで会社設立

日産自動車、富士通宇宙開発室をへて、32才で独立し色々あって無一文で（有）オービタルを設立しました。

●宇宙の仕事の楽しさは二つあります。

宇宙科学の話と仕事としての楽しさです。儲かるか儲からないよりも、誰もやったことのないことを仕事にできることがいちばん楽しい。今は、宇宙用の部品や衛星などを作っています。

宇宙は温度差が激しく過酷なので、衛星や探査機器は、断熱のために金色のキラキラしたフィルムを何枚も重ねた手作りの『洋服』を着ています。今アジア圏では、うちだけしか作れません。

●総理大臣賞を受賞

現在、三菱重工の工場内にインキュベーターラボがあり、そこでオービタルはいろんな会社と宇宙開発しています。政府予算の超小型衛星開発の「ほどよしプロジェクト」でルールやモノ作りのサプライチェーンを見直し、小さな衛星を安く作り、特に宇宙開発の基盤を支える若い人たちが企業を育てたことが評価され、総理大臣賞を受賞しました。

●光通信のプロジェクトは量子暗号通信です。

安全な暗号通信を開発するためには大手が何社も手を組まなくては実現しません。専門家でなく何のしがらみもないという理由で私が研究責任者として選ばれ携わっています。

●太陽光発電で、地上にエネルギーを送る

宇宙で太陽光発電をしてエネルギーを送る宇宙太陽光発電プロジェクトが動き始めています。いつか、2km四方ぐらいの大きな太陽電池を宇宙に上げて発電しようというのが最終的な目標です。

●ダークマターが世の中を占めている？

宇宙には未知の要素であるダークマターとダークエナジーがあり、私たちが目で見ているものは宇宙の質量の中であって5%しかない。その他は見えていないだけで、感じることも出来ないものが宇宙のほとんどを占めていることがわかってきました。

●宇宙ではビッグバンがあった

宇宙の歴史ではビッグバンが起きて、宇宙が膨張していくのが大体138億年前。ハッブル宇宙望遠鏡という宇宙にある天文台望遠鏡の後継プロジェクト「ハッブルオリジンプローブ」に関わったことがあるが、これはタイムマシンを作っているようで、とても興奮します。

●実は宇宙から来たのではないか？

生命の源になるアミノ酸は、実は宇宙から来たのではないかという話があります。そこで

「所さんの目がテン！」の番組で成層圏でアジの干物を作る実験をしました。紫外線がすごいので、短時間でタンパク質が分解されてアミノ酸になり完璧な干物になりました。

●宇宙開発から災害対策支援、そして若者育成

我々は宇宙開発やロボットやドローンを飛ばしてきましたが、2011年の東日本大震災時には何もできず、エンジニアとしては歯がゆい思いをし、72時間以内の救助で何かできることはないかと考えるようになりました。



た。現在、IoTテクノロジーを活用して、地方や田舎の場所にセンサーを設置し、災害の監視と早期警告を行う取り組みが進行中です。

高校生や大学生など若い世代がモジュールを開発し、センサーを設置して実験を行い地方の安全性向上を目指しています。地域社会の災害対策を支援しています。

講師プロフィール

一九六三年札幌生まれ
旭川西高等学校卒業、趣味のオートバイに夢中になり三回の留年を経て神奈川大学卒業。日産自動車、富士通宇宙開発室をへて、三十二才で独立しオービタルエンジニアリングを設立。小型衛星、宇宙通信、光通信などの開発に携わっている。

これまでエンタメ分野での実験や宇宙の特殊な環境での技術開発、宇宙太陽光発電の研究などにも挑戦。近年は、IoTテクノロジーを活用し地域の防災・減災に役立つモジュール開発にも情熱を注ぐ。

（実際の講演内容は、画像や動画を使用した詳しいものですが、紙面の都合で大幅に省略しました。当会のホームページに講演を文字起こしたものを掲載しました。是非御覧ください。）

東京旭川会
ホームページ
第45回総会懇親会
講演録



https://www.asahikawakai-tokyo.jp/yamaguchi_kouen.html

東京旭川会の活動を報告します

東京旭川会では会員相互の懇親を深めることを目的に様々な活動を行っています。2023年は郷土訪問の旅、劇団BREATHの観劇、旭川大雪圏域フェスティバルの応援などを行いました。

今後の皆様の参加をお待ちしています。

第30回郷土訪問の旅を実施しました

コロナ禍によりしばらく中断していましたが、昨年6月5日に5年ぶりに30回目となる郷土訪問の旅を実施しました。

朝方まで残っていた雨も出発までにはすっかり上がり天候にも恵まれました。

参加者14名が市役所前に集合。旭川市のご厚意により新庁舎建設現場を見学させて頂きました。その後、旭山動物園、丹野ファミリー「クラフトギャラリーKIMAMA」、旭川公園ゲストハウス、男山酒作り資料館を訪問。夜には旭川市関係者の方々と懇親会で充実した郷土訪問



▲旭川市新庁舎展望フロアーにて



▲旭川公園ゲストハウスにて旭川に移住したいきさつなど貴重な話をお聞きすることが出来ました



▲丹野クラフトギャラリーにて精巧な作りと何十年も使える丁寧な作りに皆感心しきりでした



▲旭山動物園にてお忙しい中、時間をとってご案内して頂いた坂東園長とともに

の旅は終わりました。

今回の郷土訪問の旅では、個人ではなかなか行けないようなところや、旭川で活躍されている方々の貴重なお話を伺うことができ、大変有意義な楽しい一日となりました。

東京旭川会では今後も郷土訪問の旅を基本的には隔年で実施いたしますので、会員の皆様方のふるってのご参加をお待ちしています。

旭川市の話題

旭川市の新庁舎が完成

41か月の工期を経て、かねてより建設を進めていた旭川市の新庁舎が完成し昨年9月1日に約100名の招待者の臨席のもと、落成式が執り行われました。窓口など市民利用が多い低層階（1階～3階）が11月6日に新庁舎にて業務を開始したのをはじめてとして順次新庁舎への移転が行われ12月中旬に全部署の移転が完了しました。12月17日には旧庁舎の閉庁式が執り行われました。



▲新庁舎全景
内部は木をふんだんに使い、落ち着いた雰囲気を感じさせるつくりとなっています
写真は旭川市のHPより引用

新庁舎完成を機に、旭川出身の画家佐藤美紀さんの絵が旭川市に寄贈され新庁舎八階の市議会議場ロビーに飾られています。昨年行われた東京旭川会総会の際に今津旭川市長から佐藤さんに感謝状が贈呈されました。

また、新庁舎一階にはスポーツブースが設置され、星野伸之さん、北口榛花さんのVRや槍などの触れる展示物や旭川出身のスタルヒンなどのスポーツ選手の映像などが展示されました。



▲寄贈された絵と共に佐藤さんと市役所の方々
佐藤さんのブログより引用

旭川スポーツみらいアンバサダー就任

スポーツ分野で全国的、国際的に活躍し、多くの方から親しまれている旭川市出身者及びゆかりのある方が旭川のスポーツ推進に関する活動を広く周知するとともに、子どものスポーツへの関心や技術を高めることを目的に旭川スポーツみらいアンバサダーに就任しています。昨年6月17日に旭川野球界のレジェンド・元オリックスバファローズの投手で現在は野球解説者、評論家として活躍の星野伸之さんが第1号に就任しました。また10月20日には女子やり投げの北口榛花選手が第2号に就任。さらに12月3日にバスケットボ



▲スポーツみらいアンバサダーの皆さん。
右から星野伸之さん、北口榛花さん、町田瑠唯さん
写真は旭川市ホームページより引用し編集

ールの町田瑠唯選手が第3号に就任しました。町田選手は21年東京オリンピックの銀メダル獲得に貢献。Wリーグのオールスター2023・24のファン投票でイースト1位に選ばれました。

女子やり投げ北口榛花選手躍動の一年

今シーズンはダイヤモンドリーグ第8戦で67メートル04の日本新記録を樹立。8月の世界陸上では日本女子のフィールド種目で初の金メダルを獲得しました。五輪を含めマラソン以外の種目で日本女子が優勝するのは史上初めてのことで。陸上の日本勢では第一号となるパリオリンピックの代表にも決まりました。さらにダイヤモンドリーグファイナルでも金メダル。大活躍の一年でした。年末には日本陸連のアスレティ



▲世界選手権金メダルの北口選手
日本陸上競技連盟公式サイトより引用

ックス・アワード2023の最優秀選手に当たる「アスリート・オブ・ザ・イヤー」にも選ばれました。女子投てき種目では初めての快挙です。

北口選手は日大に在学中にコーチを求めてやり投げ強豪国のチェコに単身で訪れ、現在もコーチを務めているデビッド・シエクラック・コーチに師事。チェコ語もほぼ独学で習得



▲東京グレートベアーズとの対戦の一コマ（1月20日 代々木第二体育館）会場は満員で、すごい熱気でした。ヴォレアスは1-3で善戦むなしく惜敗。試合後にはトークショーと交流会も開催されました

し、今では流ちょうなチエコ語でインタビュにも応じています。世界のトップアスリートの仲間入りを果たした北口選手が昨年の漢字に選んだのは「躍」。パリオリンピックでの活躍が大きいに楽しみです。

バレーボールヴォレアス北海道 一部リーグに昇格

旭川市に本拠地を置くバレーボールの男子チーム ヴォレアス北海道は昨シーズン二部リーグ一位となり、昨年4月に行われた一部と二部の入れ替え戦において2戦2勝とし悲願の一部リーグ昇格を果たしました。旭川市内で行われたパブリックビューイングには大勢の人が集まり勝利の瞬間は会場が大歓声に包まれました。

ヴォレアス北海道は2016年に道内初のプロバレーボールチームとして旭川市に誕生。現在一部リーグの2023-2024シーズンを戦っています。皆さんで応援しましょう。

またヴォレアスはスポーツチームとして活動してきた中で、違和感を抱き、課題意識を持った経済や環境にかかわる問題解決へも積極的に取り組んでいます。

旭川・成田間 ジェットスター就航

ジェットスターが新たに旭川・成田間にLCC定期便を開設することになり、昨年9月1日に旭川市で会見が行われ、昨年12月15日から1日1往復2便の運航を開始しました。使用機材はエアバスA320型機。180席です。



▲旭川空港を出発するジェットスター機
北海道新聞旭川支部ホームページより引用

ジェットスター・ジャパンの片岡社長によると、地域の協力体制のもと旭川の観光資源の豊富さや北海道の中央に位置し、観光拠点として秀逸なことなどが旭川路線の新規開設の理由とのこと。また海外へのプロモーションも今後充実させるなど観光需要の創出に取り組みたいとのこと。今津旭川市長も旭川の新しい歴史の扉を開く日として歓迎と期待を示しました。

劇団BREATH 東京公演

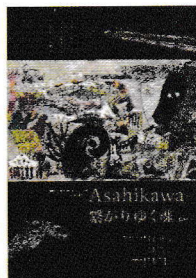
劇団BREATHは平成8年旭川市と近郊8町の有志によって官民一体型モデル団体として『この街に自分達の手で彩（いろ）をつけていきたい』との想

いで発足した旭川市直轄の非営利劇団です。

第8回公演「Asahikawa: 繋がりゆく魂」が昨年11月4、5日の旭川に続き11日には東京で開演されました。東京では500名以上の人々が観劇しました。

昨年は宮沢賢治が旭川に降り立つて100年目に当たりました。旭川にゆかりのある実際の歴史上の人物や史実を織り込み、明治から現代の時空を超えるオリジナルミュージカルでした。

東京旭川会でも会員やその家族・友人の方々が観劇しました。ここまで作り上げてこられた劇団員と関係者の皆さんに拍手をお送りいたします。



▲公演パンフレット



▲東京旭川会の会員、家族も観劇しました

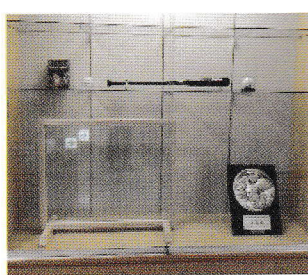


▲公演の一コマ

イチロー氏

旭川東高校野球部を指導

イチロー氏が昨年11月4日と5日の二日間にわたり旭川東高校グラウンドで同校の野球部員を熱心指導しました。訪問のきっかけは2021年暮れに旭川東高校の関係者からの熱い思いがイチロー氏に届いたことと、同校がこれまでに北海道大会で11度も決勝進出を果たすものの一度も甲子園にコマを進めていなかったこと。イチロー氏がフリーバッティングを披露した際には四階建ての建物の三階の窓ガラスを直撃。割れた窓ガラスはイチロー氏のサインボールやフリーバッティング時のバットとともに展示されています。また北口桜花選手のグッズも一緒に展示されています。



▲旭川東高校に展示された割れた窓ガラス及びバットとボール

旭川東高校OBの吉田洋氏撮影

俳句甲子園 旭川東高校 準優勝

高校生が五人一チームで俳句の出来や鑑賞力を競い合う第26回俳句甲子園が昨年8月18日から20日に松山市で行われました。全国19都道府県の32チームが全国大会に出場し、そのうち6



▲決勝戦の様子 日経新聞ホームページより引用

チームが決勝リーグに進出。この中から旭川東高校と開成高校が決勝にコマを進め、旭川東高校が準優勝に輝きました。旭川東高校は敗者復活戦から勝ち上がり決勝まで進出する大健闘でした。

旭川大雪圏 フェスティバル開催

旭川大雪圏域連携中核都市圏で実施する初のシティブロモーションとなる旭川大雪圏フェスティバル2023が昨年10月26日と27日の二日間東京トーチで開催されました。旭川大雪圏域の各自治体のPRや北海道のミニマルシェ、旭川家具のPR、及び一市八町の首長が集合しトッパセールスによる自治体のPR、旭川食のアンバサダーである下園伸シェフのミニトーク及び会場産品レシピーの試食などが行われました。東京旭川会でも主要メンバーが会場に応援に伺いました。



▲フェスティバルのパンフレット

私(達)
こんな活動を
しています。



▶懇親会で使用したスライド抜粋
本人提供及びFB「関東あさひかわ人街」他
より引用



旭川にゆかりのある方々は、音楽、文芸、芸能、スポーツやふるさと応援活動をなさっている方など多士済々です。

熱心に活動している挑戦者から、私たちが勇気をもらい、同時に彼らに勇気を伝えることができ、ふるさと旭川にエールを送ることに繋がれば幸いです。

昨年の懇親会では、ステージから次の3人の方に発表していただきました。

千葉楽斗さん

千葉楽斗さん

(津軽三味線奏者、
伝統音楽研究者)



▲千葉さんのブログより

EXPLORING THE WORLD OF
JAPANESE TRADITIONAL MUSIC



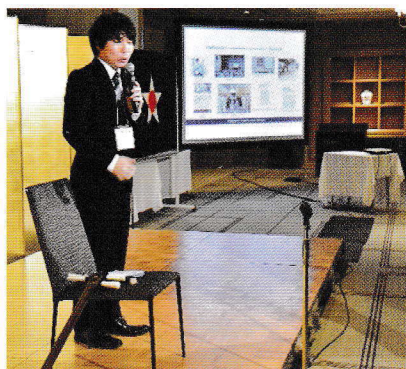
千葉さんは、1998年12月
網走市生まれ。

音楽教師である両親の転勤により北見、占冠など、最後は旭川市で過ごしました。

5歳より民謡を菅野孝山に師事し、6歳より津軽三味線を始



▲幼い頃の千葉さん



▲懇親会で発表する千葉さん

現在、学校公演や公民館事業などで演奏を担う一方で、慶應義塾大学大学院で比較音楽学・民俗音楽学を専門とし、質的・量的アプローチを組み合わせた異文化間の音楽における普遍性や多様性を研究しています。

演奏者かつ研究者として日本の伝統楽器「津軽三味線」を世界に発信する第一人者です。



▲1st CD 誠音-MAKOTO-

めました。

12・15歳で津軽三味線全国大会3大会で優勝を果たすと同時に本格的なソロ活動を行いました。その後、慶應義塾大学環境情報学部進学を機に上京。

20歳には津軽五大民謡を三味線で綴る1stアルバム「誠音-MAKOTO-」をリリース。

山本瑞樹さん

(旭川出身の
イラストレーター)



▲山本さんのブログより

ドクターヘリの指令を担当する傍ら、飛行機やヘリコプターなどのイラストを中心に制作し航空業界内外に提供しています。

高校を卒業後、東京消防庁などを経て「ドクターヘリの仕事が見たい」と航空会社(朝日航空)に転職しドクターヘリの指令として関東各地の病院や旭川赤十字病院で勤務しています。

本格的にイラストに取組んだのは、ドクターヘリとして転職した頃でした。

昨年、福音書店から子供向け科学雑誌「月刊たかさんのふしぎ」のイラストの依頼があり全ページと特別付録ポスターを担当しました。ここには、大好きな故郷の旭川周辺の風景を沢山取り入れました。

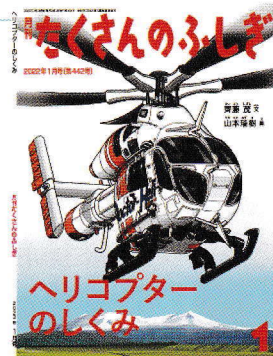


旭川市

朝妻久実さん

(AJOの活動、
旭川観光大使)

司会の朝妻さんは、「応援溢れる社会を目指す」を目標にAJOの活動をしています。11月11日(土)に開催する、誰かのために何かのために応援する人・企業・団体を表彰し応援文化を拡げていくための社会貢献型のイベント「応援アワード2023」について説明がありました。



▲大雪山をバックに離陸するドクターヘリ

イラストの依頼は、各地の警察本部や航空会社など多数。ワッペンやデザインなど創作活動の幅がますます広がっています。

旭川出身者の活躍

谷口雅彦さん

（令和4年旭川市文化奨励賞、令和5年度旭川ななかまど文化賞受賞）



▲谷口雅彦さん

昭和42年、旭川市生まれ。9歳の頃、お小遣いでカメラを購入して以降、写真撮影に魅了され今日に至り、著名な写真家丹野章氏などから教えを受け、フリーランスの写真家として国内外で作品発表を続けています。

作品は多様性に満ち、中でも東日本大震災からの復興をモチーフとした写真は観る者の心を強く打ち各種の受賞歴も多い。写真評論家の飯沢耕太郎氏に現代における日本の写真集の傑作の一つとして紹介された後は、全国的に活動が注目されています。写真に関するプロジェクトやイベントにも意欲的に取り組み、様々な分野の芸術家と提携した数多くの文化活動にも携わっています。特に故郷である旭川では新設の画廊で15年ぶりに自身の展覧会を開催したり、文芸誌に表紙写真を提供したりするなど、市内の若い芸術家たちを応援する取組に尽力しています。市民活

動団体「あさひかわ写真アーカイブ研究会」の顧問として写真研究にも取り組んでいます。また、明治期に旭川で初めて写真館を開業した中鉢直綱氏の足跡を研究する「写真師中鉢直綱研究室」を設立するなど、写真にまつわる旭川市の歴史や文化、芸術の振興と発展に大きく貢献する人物として、今後の更なる活躍が期待されています。（旭川市HPより）



▲「旭川で最初の写真師中鉢直綱とあさひかわの写真」展

須田珠生さん

旭川東高出身、御茶ノ水大学を卒業、京都大学大学院を修了し、日本芸術振興会特別研究員を経て、令和5年9月より小樽商科大学商学部准教授。

昨年4月、旭川文学資料館主催の企画展「小学校の校歌展」で「校歌その軌跡」と題し記念講演。明治期から昭和戦前期までの期間を主な対象として、なぜ日本の学校が校歌を制定する

ようになったのか、校歌の起源とその展開を研究しています。主な著書に『校歌の誕生』（人文書院、2020年、単著）、『男女共学の成立―受容の多様性とジェンダー』（六花出版、21年、共著）等があります。

『校歌の誕生』を出版した際に、日本経済新聞の「あとかぎのあと」というコーナーでインタビューが掲載されました。



▲2020年5月20日付け日本経済新聞

川村健一さん

（アパレルブランドKEBOZのオーナーKenboさん）

旭川市で青春時代を過ごし、高校では野球で甲子園にも出場。卒業後は、広告会社に勤務しながらアパレルブランドを立ち上げ、Instagramを中心に活動。2021年3月、東京・蔵前に1階に飲食店「旭一」、2階にアパレルショップ「KEBOZ」をオープン。

現在は、東京を拠点に渋谷パルコやお台場ダイバーシティ東京プラザ他全国各地でPOP UP SHOPを開催しながら、地元である「北海道日本ハムファイターズ」や、映画「メジャリーグ」とのコラボレーションなど、野球を軸にさまざまな



▲KEBOZのwebサイトより

仕掛けを行なっています。

6月に行われた星野伸之さんの旭川スポーツみらいアンバサダーの委嘱式の野球教室では、参加した子ども達に大人気アパレルブランドKEBOZのオリジナルTシャツを贈りました。（旭川市の広報誌「あさひばし」8月号）

加藤千恵さん

（歌人・小説家）



加藤千恵さん最新作（公式ブログ）

旭川北高出身。高校時代に本格的に創作を始めてインターネット上で作品を発表する傍らNHKの短歌番組の常連入選者として活躍しました。10代の微妙な心情を平易な言葉で巧みに表現した作風は、柊野浩一らに高く評価され、2000年に短歌研究社主催の「うたう」で作品賞佳作となり、2001年に雑誌「ハッピーマウンテン」と処女短歌集『ハッピーアイスクリーム』

を出版し、後者は歌集として異例のベストセラーとなりました。2002年の立教大学文学部日本文学科進学を機に上京して本格的に作家活動を開始し、第2短歌集『たぶん絶対』を出版して雑誌「Nipper」（祥伝社）で短歌エッセイを連載するほかに、恋愛小説も多数執筆しました。2018年に第二子を出産し、同年6月以降は地元旭川市に在住していました。2021年8月に再び都内に拠点を戻し昨年12月には最新作を発刊しました。

とにかく明るい安村さん

「はいてますよ」

英国で大ブレイク

「安心してください、はいてますよ」というセリふとともに、まるで何も着ていないかのように見えるポーズの芸で知られる、とにかく明るい安村さん（旭川出身、旭川実業高校）は昨年6月、英国の人気オーディション番組「ブリテンズ・ゴット・タレント（BGT）」に「TONIKAKU（トニカク）」と名乗って出演し、日本人初の決勝進出者となったことで、再び注目を集めています。



▲BGT2023より

